

# FINANCIAL REPORT 2017

## 千葉大学 財務レポート

平成28事業年度 財務レポート  
平成28年4月1日～平成29年3月31日



# CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2017

## CONTENTS

### ビジョン

Vision Chiba University 2015-2021 ————— 02

### 最新のトピックス

Topics ————— 04

### 産学連携

Educational Industrial Complex ————— 10

### 研究成果の実用化

Research ————— 12

### 千葉大学SEEDS基金

Fund ————— 14

### 医学部附属病院

Hospital ————— 16

### 学外から利用できる研究機器の紹介

Research Instrument ————— 18

### 平成28事業年度決算

Financial Report ————— 20



# 千葉大学憲章

## 千葉大学の理念

### つねに、より高きものをめざして

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす。未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

## 千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかかわりあいを持ち、普遍的な教養（真善美）、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

**1** 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育ていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。

**2** 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。

**3** 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。

**4** 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

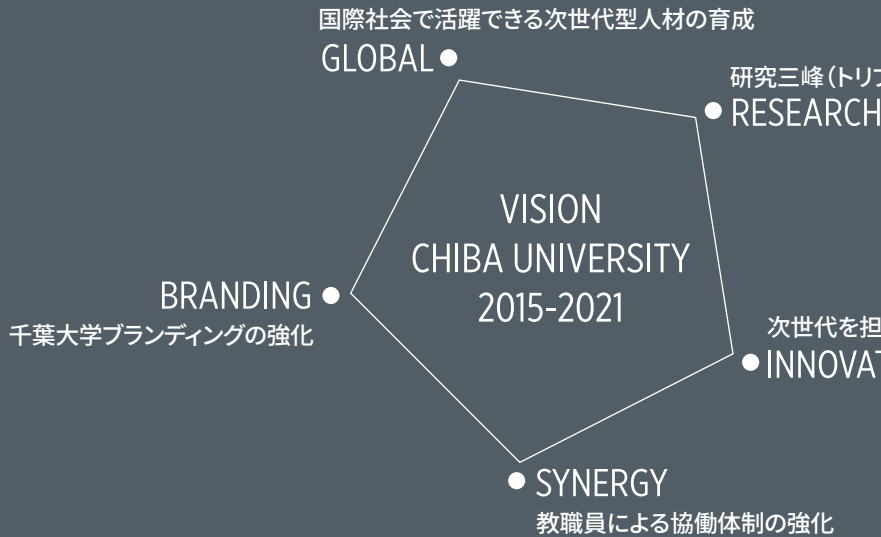
2005年10月11日 制定



# 千葉大学



## 世界に輝く未来志向型の 総合大学へ!



### FINANCIAL REPORT 2017 公表にあたって

千葉大学は、昭和24年に5学部から成る新制国立大学としてスタートし、現在では10学部と13大学院の他、多数の教育・研究センター等を有する大規模総合大学となっています。その間、平成16年には国立大学が法人化され、千葉大学は一つの独立した法人として、独自のビジョンに基づく教育研究面での機能強化を積極的に推進しています。

第3期中期目標期間が始まる平成28年度から、各国立大学は機能強化の方向性の違いから3つの大学群に分類されました。千葉大学は「全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」という大学群に入り、スーパー・グローバル大学創成支援事業の支援を得て、特色ある文理融合型の教育研究を推進するとともに、グローバル社会の中心となって活躍できる次世代型人材の育成に向けて国際教養学部を新設して、国際社会で活躍できる個性豊かな人材の養成を加速させています。

このようなミッションを継続的に推進していくためには、強固な財務基盤の構築が必要不可欠となります。しかし、法人化以降、基盤的資金である国からの運営費交付金が減額され続けています。そのため外部資金の拡充が教育研究面での機能強化に必須となっているばかりでなく、千葉大学SEEDS基金などの寄附金が学生の修学支援などの充実に向けた財源として非常に重要になってきます。

この「CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2017」は、本学に対してご支援、ご協力をいただいている皆様に、千葉大学の現状への理解を深めていただくことを目的として、本学の財務情報をより透明性の高い形で分かりやすく記載するとともに、本学の教育・研究・社会貢献を中心とした活動についてもお知らせするようにいたしました。本冊子が、千葉大学の現状の理解につながるとともに、本学の更なる発展に向けた改革内容の理解に役立つことを願っています。そして、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

徳久剛史

- 環境リモートセンシング研究センター
- ヨウ素資源イノベーションセンター
- グローバル・プロミネント研究、猿橋賞の受賞
- 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)  
地(知)の拠点大学による地方創成推進事業  
(COC+事業)
- 国際教養学部
- 環境ISO学生委員会

## 環境リモートセンシング研究センター

### 1 世界最小・最軽量の小型衛星・レーダの研究モデルが完成 - 高精度(mm~cm精度)で自然災害の前兆を観測

千葉大学独自で開発したグローバル環境・地殻変動観測用Lバンド(周波数1.275GHz帯)の宇宙用レーダを開発してきましたが、この度世界最小・最軽量100kg級小型衛星・レーダの研究モデルが完成しました。

### 2 驚異の小型化・軽量化を「糸、軽量化ばね材」で実現



環境リモートセンシング研究センター  
教授 ヨサファット テトオコ スリスマンティヨ

「小型衛星SARによって、将来グローバル地殻変動を詳細かつ精密に観測でき、災害による被害を軽減できると期待しています。」

既存の衛星が数百kg~数トンの質量であることに対して、千葉大学発の小型SAR衛星は150kg以下に軽量化できました。アンテナは直径2~3.6mで、質量は従来の約数十kgから10kg以下の軽量化に成功し、軽量化は、アンテナ部分を従来のアルミ、強化プラスチックなどから、金メッキを施した金属製の細い糸を素材とするメッシュ(1㎡あたりわずか50g)

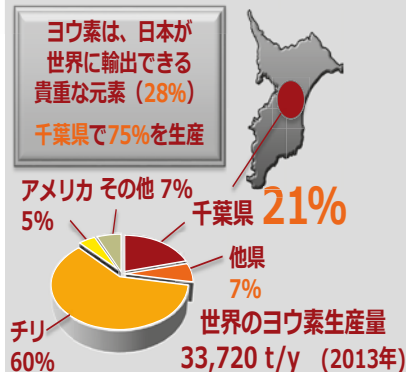
及び骨組みを軽量化ばね材に変更することにより実現しました。

### 3 独自開発のレーダで地表観測精度が劇的に向上

千葉大学独自開発の円偏波合成開口レーダ (CP-SAR、円軌道を描く電磁波を発射) により、地表の円偏波観測が可能となり、新世代の地球観測手段になることが期待されます。このセンサは雲・霧・煙等に影響されず地球表面を鮮明に監視できる全天候型、夜間でも観測が可能であり、災害監視に優れています。

## ヨウ素資源イノベーションセンター

### 世界のヨウ素資源



### 1 千葉県の豊富なヨウ素を世界へ「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」設立へ

本センターは、日本の貴重な「ヨウ素 (ヨード)」資源を有効活用し、地方創生を実現する拠点として平成30年4月1日に設置を予定しています。ヨウ素は日本が輸出できる貴重な元素であり、千葉県は世界のヨウ素生産量の21%を占めています。しかし、日本から輸出されるヨウ素のほとんどは製造原料であり、それを原料として海外の製造企業がX線造影剤や消毒薬など高付加価値な製品に加工・販売し、日本はそれら製品を輸入しているのが現状です。本センターでは、産官学が連携し、限りあるヨウ素資源の有効活用と付加価値の高い製品の開発・製造を目指します。

## 2 ヨウ素資源の高機能化

- 次世代太陽電池用のヨウ化鉛の安定供給
- 導電性に優れた有機薄膜の開発
- 放射性ヨウ素薬剤によるがん診療・治療の新展開
- 新規造影剤の合成法の開発
- 有機ヨウ素化合物を利用した高機能ポリマーの開発

## 3 産官学の連携体制

千葉大学が千葉県と共に申請した「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」(CIRIC)が、平成28年度文部科学省の「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択されました。

また、県内のヨウ素関連企業5社や、化学製薬メーカーと連携し、幅広い共同研究体制を強化し、地方創成を目指します。



理学研究院  
教授 荒井 孝義

「千葉大学の特徴ある研究を推進する「千葉大学グローバルプロミネント研究基幹」のリーディング研究育成プログラムとして『先導的ソフト分子の活性化と機能創製(ソフト分子活性化)』が採択されています。本プログラムでは、千葉大学の誇る触媒化学、分析化学、マテリアルサイエンスを融合し、新規な機能性ソフト分子の創製を目指しており、「ヨウ素の高機能化」は中核をなす重要なテーマです。CIRICには、最新鋭分析機器 (NMR, XPS, Raman, ICP, LC/MS/MS, ITC 等) が配置されます。是非、皆様の研究推進にお役立てください。」

## 優れた女性科学者をたたえる「猿橋賞」を石原准教授が受賞

千葉大学グローバル・プロミネント研究基幹 (ハドロン宇宙科学) の石原 安野 (いしはら あや) 准教授が、「猿橋賞」の第37回受賞者に選ばれました。

2012年に世界で初めて高エネルギー宇宙ニュートリノ事象を同定することに成功し、高いエネルギーを持つ宇宙ニュートリノ探索を精力的に推進し、2016年には超高エネルギー宇宙線起源として長年有力視されてきた仮説を覆す結果を得ています。現在はアイスキューブ実験の次期計画であるアイスキューブジェンツー (IceCube-Gen2) 実験に向けた新型検出器開発の日本における責任者として従来の検出器の約3倍の検出性能を持つ光検出器製作の指揮にあたっています。

### 猿橋賞

1980年に猿橋勝子博士 (地球化学研究協会専務理事・元日本学術会議会員) により創設された一般社団法人「女性科学者に明るい未来をの会」が主催し、毎年1名、自然科学の分野で顕著な研究業績を収めた女性科学者に贈られています。



グローバル・プロミネント研究基幹  
准教授 石原 安野 (いしはら あや)  
「宇宙からくるニュートリノの研究という基礎科学の成果について猿橋賞をいただき大変光栄に感じていると共に、今後の研究の発展に責任を感じています。また新たな発見が生み出せるような研究、そしてさらなる若手研究者が次の成果を生み出せる環境づくりを押し進めていきたいと考えています。」

# 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業) 地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC+事業)

## 1 大学COC事業

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択された本事業は、地域課題が山積している大都市郊外の住宅地コミュニティにある大学として、その課題解決のため、教育、研究、社会貢献に総合的に取り組む拠点づくりを目的としています。その取り組みを行うために、コミュニティ・イノベーションオフィスを設置、現地には、サテライトキャンパスを新設し、大学のマネジメント体制を整え、自治体との連携により全学的に地域を志向した大学への改革を推進しています。

平成28年度評価では、全体の上位9.2%である最高のS評価を受けました。総合大学としての多様な専門性を生かしつつ、地域課題解決にかかる人材育成の体制が整備されていることが高く評価されました。

### 特徴的な取り組み1

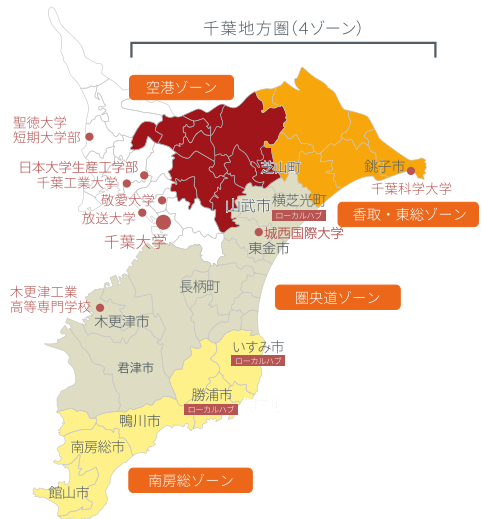
千葉市の旧小学校を借り受け、千葉大学のサテライトキャンパスとして、教育・研究・社会貢献を進めます。

### 特徴的な取り組み2

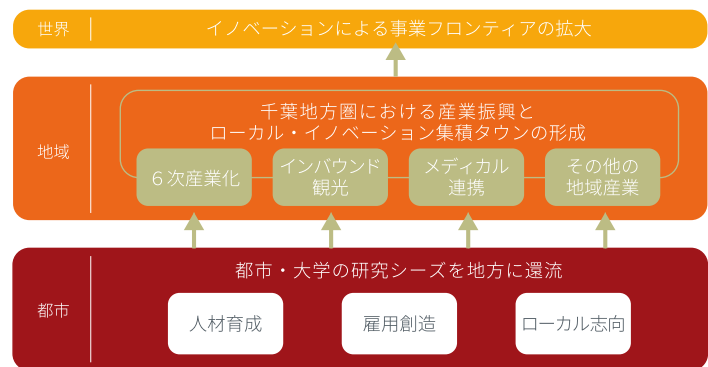
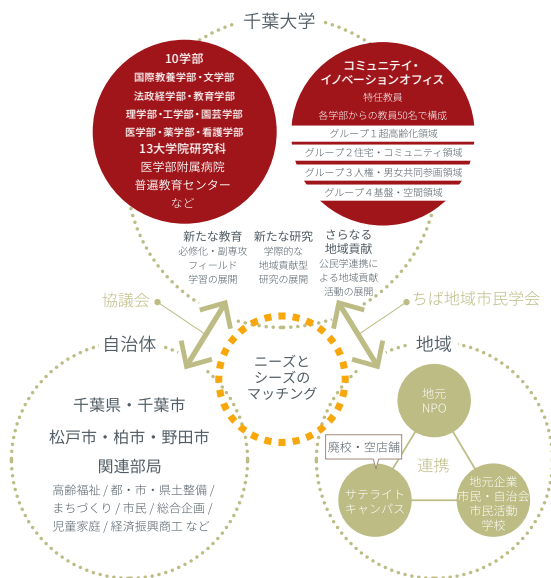
教育・研究・地域貢献が一体となった学際的な取り組みを学内公募によって進めます。

## 2 COC+事業

平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された本事業は、大学が地方公共団体や企業などと協働し、地方における魅力ある就職先の創出・開拓と、その地域が求める人材育成のための教育カリキュラム改革に取り組みます。千葉大学では、都市の研究シーズを千葉に集約させ、地方に還流し、地域産業にローカル・イノベーションを興す「地域産業イノベーション人



材」を育成します。若者人口が流出する千葉の地方圏を事業協働地域とし、横芝光町、いすみ市、勝浦市を重点モデル地域としています。3市町には活動の拠点となるローカルハブを設置し、推進コーディネーターと4名の地域コーディネーターが常駐することで、地方圏における地域産業の活性化と若者の就職率向上に向けた取り組みを推進します。本事業では、6次産業化、インバウンド観光、メディカル連携の各産業に集中化し、参加・協力大学はそれぞれの役割に応じた地域産業において成長産業の振興を推進します。また、成長が期待できる産業や成長可能な企業をコンソーシアムや共同研究によって支援するほか、研究開発技術の社会実装および他分野への応用を進めます。学生が地方で定着し活躍するよう、年次ごとに地域と関わる濃度を変える「グラデーション学習」を導入します。また、地元の高等学校・中学校等においても、人口減少や地方創生のセミナーを開催し、地域への誇りや愛着を育てる教育を推進します。さらに、地方の企業への就職斡旋や情報提供を進め、大学生の地方への就職(ローカル・ファースト)を支援します。







## 国際教養学部

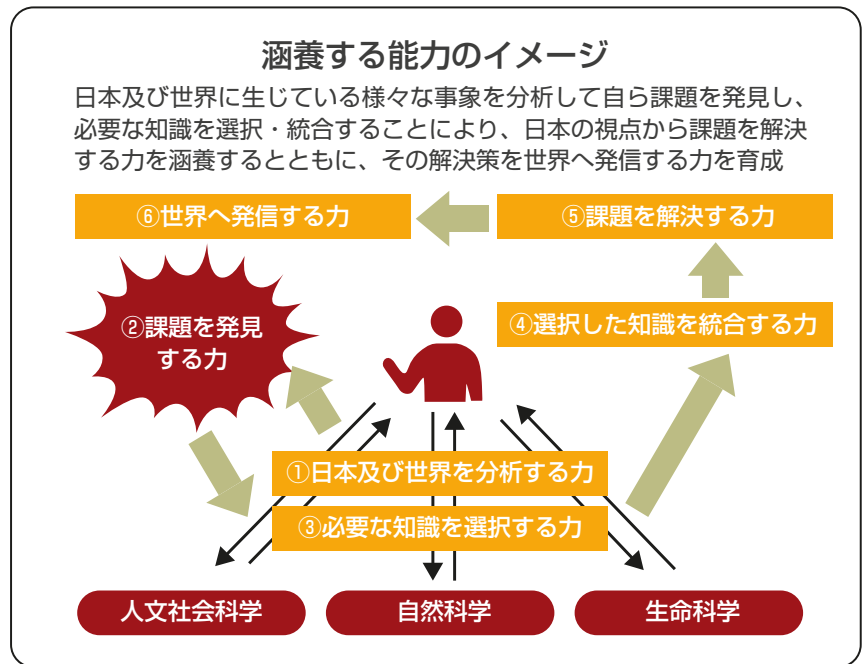
### 1 国際教養学部の養成する人材像

私たちの社会が持続的に発展するためには、環境問題や人間の安全保障などの既存の学問分野単独では解決困難な課題と向き合っていかなければなりません。また、世界最先端の科学技術や独自の文化を有するわが国の魅力が広い世界に認知されることは、日本及び世界の発展に対する貢献に繋がります。

千葉大学10番目の学部として2016年(平成28年)4月に設置された国際教養学部は、「グローバル・日本・ローカル」という複合的視点から国際理解と日本理解の双方を備えた上で、俯瞰的視野、多角的な視点で物事を考え、日本独自の視点から課題を発見・解決し、その解決策を世界へ発信することができるグローバル人材の養成を目指しています。

### 2 千葉大学国際教養学部の教育の特色

・文理混合教育による課題解決型教育  
従来の国際教養教育は文系が主流でしたが、現代社会の複雑な課題の解決には科学的な視点が欠かせません。そこで国際教養学部では、文理混合教育を実践します。これは、人文社会科学・自然科学・生命科学をカバーする総合大学である千葉大学だからその強みと言えます。また、課題解決型教育として、従来からの発想を転換し、最初から決められた学問分野を出発点とするのではなく、課題認識からスタートし、その解決のための知識を選択・統合し、解決能力を育む教育を実践します。専門として、3年次に3つのメジャー(グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学)のうち1つに所属しますが、所属するメジャーだけで



はなく、他のメジャーについても横断的に授業の履修が可能です。

・日本・世界での学びと能動的学修  
異文化との接触、国際的な学生間の協働を通じた国際理解と日本理解の育成を目的に、国際教養学部では卒業までに最低1回の留学を必須としています。千葉大学では多彩な留学プログラムを用意しており、自身の目的・能力等に基づいて選択することができます。なお、2016年(平成28年)4月入学者は、SULAの支援を受けながら、2年次前期の時点で半分以上が留学を経験しています。また、フィールドワーク・インターンシップ・ボランティアなどのグローバルな世界と地域の双方を舞台にした活動体験も重視し、理論だけでなく実体験を通じた知識の活用と課題解決能力を育成します。このような世界や現場での学修だけではなく、大学全体として整備されている様々な学生の主体的な学びをサポートする環境を基盤として、アクティブラーニングによる学修を積極的に展開していきます。

### 3 卒業後の進路～さまざまな場所で活躍できる人材づくり～

国際教養学部の目的はグローバル人材の育成にあります。卒業後の進路は海外だけを念頭に置いているわけではありません。地域の中にもグローバルな課題はありますし、この学部で身に付く、課題を発見し解決していく能力は、どんな場所でも活かすことができるでしょう。具体的には、企業や自治体の国際部門、企画部門などが考えられます。また、工学デザインの演習も行うので、デザイン・シンキングを身につけ、IT系のデザイナー、エンターテインメントやアートのプロデューサーとしての活躍も期待できます。

## 環境ISO学生委員会

### 1 環境ISOを取得し、学生主体での運用

千葉大学では学生が主体で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を2005年1月に取得、エネルギーマネジメントシステムのISO50001は全国の大学で初めて2013年12月に取得しました。千葉大学ではこれらの取り組みを学生の実務教育の機会ととらえ、2003年に「千葉大学環境ISO学生委員会」を設立し、発足当初から大学の環境・エネルギーマネジメントシステム(以下EMS)の構築、運用を学生が担い、現在も幅広い活動を行っています。

### 2 独自の単位化・資格認定制度が目指す、環境教育&実務教育の実現



実務士認定式では学長から認定証を授与

環境ISO学生委員会は大学組織の1つとして学内のEMS運用に重要な役割を

担っています。学生委員会の活動は一般教養科目として単位化され、ISOや環境関連法規制、内部監査の手法、企画の進め方、メールの書き方などについて学びながら実践的な活動も行います。上級生になると班長や執行部として組織を牽引するとともに、実際に内部監査員や基礎研修講師を経験します。そして3年間活動を継続すると、「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」という学内資格を取得できます。

### 3 学生たちによる幅広い環境活動



古本市は1,000冊以上の学術書や参考書が並び、500人ほどの学生が購入する大きなイベントです。

学生委員会は省エネ・省資源やごみの分別、グリーン購入などを推進するためのステッカー・ポスター作成やイベント開催といった啓発活動、古本市や緑のカーテン、落ち葉の堆肥化、近隣住民とのコミュニティガーデンの運営、里山保全活動などの実践活動、また、小中学校

での環境教育活動などを積極的に行っています。

これらに加え、大学の環境マネジメントシステムを運用に必要な業務(環境目的・環境目標・実施計画の原案作成、内部監査員、認証審査の議事録作成、研修講師など)も担当しています。また、千葉大学が発行する環境報告書は、目次構成、執筆、取材、校正、デザインのすべてを延べ50人の学生が協力して制作しています。



地域の小学校で出張エコ教室を開催しています。



学生と教職員がチームを組み、各研究室の内部監査に入り、学生も監査員として積極的に質問をします。

### 4 近年は企業と協同した活動にも学生が挑戦

京葉銀行と学生委員会で地域の環境意識向上に貢献するため、2017年7月に協同ecoプロジェクトを発足しました。企業向けセミナーや子どもエコイベント、環境ボランティア、地産地消の推進などの企画を行っています。

三菱製紙販売株式会社とは、2015年に学生が間伐材やFSCについて学び、同社



約180人が所属する学内最大級の学生団体

と協同で間伐材シャープペンシルを製作して大学生協で販売しました。



7月には京葉銀行との共同記者会見を行い、学生も企画の内容について発表しました。

## 5 学生主体の取り組みによる3つの成果

■ 大学における環境負荷の削減  
ISO14001を取得する前の2004年度と2015年度を比較すると、千葉大学の構成員数や建物床面積が増えているにも関わらず、年間エネルギー消費量は約10%、水資源使用量は約53%、一般廃棄物排出量は約43%減少しました。

■ 学生に対する実務教育効果  
これまでに「環境・エネルギーマネジメント実務士」を約400人輩出しました。卒業生へのアンケートによると80%以上が「学生委員会での活動が社会に出て役に立った」と回答しています。

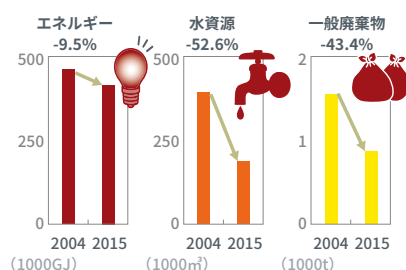
■ 大学に対する外部評価向上効果  
10年以上にわたる学生主体での取り組みが評価され、2015年度には「第25回地球環境大賞」の「文部科学大臣賞」を受賞しました。2017年には世界でサステイナブルキャンパスを推進する80以上の大学が参加するISCN (International Sustainable Campus Network) が主催



カナダで開催されたISCNの授賞式の様子

する「ISCN Award 2017」において、千葉大学は「Excellence in Student Leadership賞」を日本で初めて受賞しました。

も人前でプレゼンテーションを行う貴重な機会になります。このように千葉大学の環境マネジメントの取り組みは、「環境ISO学生委員会」を中心に地域・全国・世界に波及していくことを目指しています。



千葉大学の環境への取り組みページ  
<http://www.chiba-u.ac.jp/general/approach/environment/>

## 6 日本・世界に学生委員会の取り組みを発信



国際会議で学生たちが活動について英語で発表する様子

千葉大学の取り組みは、学生参加型のサステイナブルキャンパスの構築という点で、他大学への汎用性も高いため、国内・海外における様々な場で、学生自身が活動について発表する機会を積極的に設けています。これらは学生にとって

# 02

## EDUCATIONAL INDUSTRIAL COMPLEX

### 産学連携

情報通信技術 (ICT) の急激な進化による新たな価値の創出や、「Society 5.0」と呼ばれる急激な産業構造の変化が指摘される昨今において、大学等による優れた研究シーズの創出と産業の社会ニーズが有機的に連携し、革新的・持続的イノベーションを創出していくことの必要性が今まで以上に高まっています。特に、大学と産業が将来あるべき社会像等のビジョンを共に探索・共有し、基礎研究から実用化に至るまで、分野等の壁を越えた様々なリソースを集結させて行う『本格的な共同研究』を実現させることが求められています。

千葉大学では、平成26年10月に「産学連携・知的財産機構」を、学術研究推進機構「産業連携研究推進ステーション」に改組し、産業連携研究推進担当URAの配置や企業等とのコーディネート活動の強化等により、産業連携研究推進に向けた様々な取組を実施する体制を整備しました。

【技術相談・共同研究等に関するお問い合わせ】

産業連携研究推進室 E-mail : ccrcu@faculty.chiba-u.jp

【特許等知的財産・技術移転に関するお問い合わせ】

知財管理移転室 E-mail : beo3566@office.chiba-u.jp

## 産業連携研究 推進室

産業連携研究推進室では、産業界の方々と千葉大学の教職員との技術的協力関係の促進を支援しております。技術指導、技術相談、共同研究、受託研究などに関する御質問や御依頼がありましたら、是非、お気軽に御相談下さい。

産業連携研究推進室は、西千葉キャンパスにおける産学連携活動を支援するとともに、亥鼻地区産業連携研究推進室(亥鼻キャンパス)、松戸・柏の葉地区産業連携研究推進室(松戸キャンパス・柏の葉キャンパス)と協力し、活動を行っています。

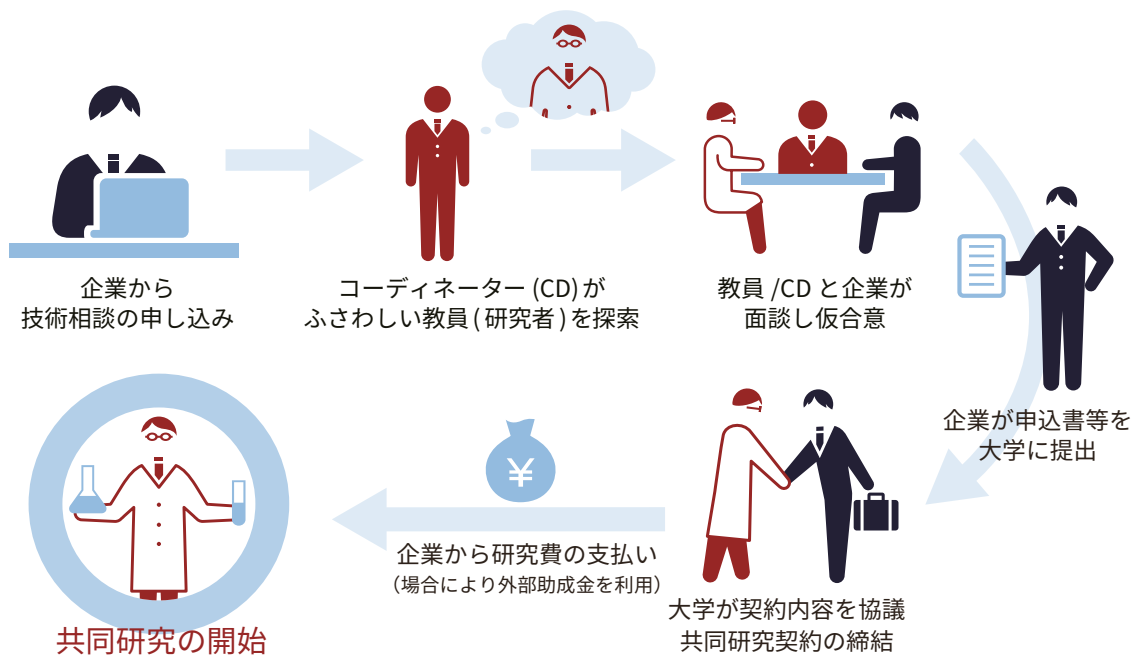
## 知財管理移転室

知財管理移転室(千葉大TLO)は、研究成果の知的財産化の業務を主とする知的財産管理チームと知的財産化として研究成果を産業界に技術移転する業務を主とする知的財産活用チームの2つのチーム編成で業務を行っています。各チームにチーム長を配置し、研究成果の技術移転活動を行うとともに、産業連携研究推進室と連携し、大学内部型TLOの活動を積極的に推進します。

## 学術研究推進機構「産業連携研究推進ステーション」



## 共同研究の流れ



共同研究申請に関する詳細については、ホームページをご覧ください⇒ <https://www.ccr.chiba-u.jp/sangaku/>

## 株式会社 アミンファーマ研究所 起業・共同研究

### 1 千葉大学の研究成果を実用化して 起業

株式会社アミンファーマ研究所は、千葉大学大学院薬学研究院の五十嵐一衛教授の長年の研究成果を実用化するため

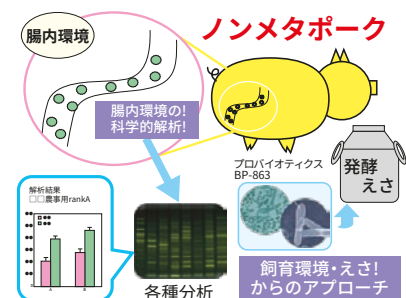


検査は血液のみ

## 株式会社サーマス 起業・共同研究

### 1 産学共同研究の成果を基に起業

株式会社サーマスは、千葉大学、京葉プラントエンジニアリング株式会社、日環科学株式会社等との好熱性微生物に関する産学共同研究の成果を実用化するため、平成25年1月に設立されました。動物飼料への事業化に成功し、『ノンメタポーク』ブランドの新しい豚肉を開発・展開されています。現在、第一ホテル両国、東武ストア（一部店舗）等に採用されて、事業規模を拡大されています。



新規プロバイオティクスの発見と飼料への応用

に、平成19年4月に設立されました。血液だけで脳梗塞のリスクが分かる『脳梗塞リスク評価』は全国200か所以上の医療機関に導入されており、年間約18,000人に利用されています。平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞の技術部門を受賞されました。

## 2 起業後も大学と産学連携/共同研究を積極的に推進

株式会社アミンファーマ研究所は、起業後も千葉大学と積極的に共同研究を推進しています。血液だけでなく、尿での検査も可能とするべく、現在も千葉大学との産学連携研究を積極的に進めています。



血液からリスク値を分析

血液検査で

# 脳梗塞のリスクがわかります

## 世界で初めての脳梗塞リスクマーカー

<http://www.amine-pharma.com>

お近くの医療機関で簡単受診!詳しくはHPをご覧ください



株式会社 アミンファーマ研究所



「ノンメタポーク」としてブランド化

## 2 ペットフード会社と愛犬用のプロバイオティクスを開発

ペットフード会社の株式会社スマックと共同で、愛犬用のプロバイオティクスを開発されました(2017年7月10日 株式会社スマックよりニュースリリース)。

## 3 大学との共同研究を積極的に推進

動物飼料への事業化だけでなく、ヒトの健康へ寄与するべく、起業後も千葉大学を含め多くの大学等と産学共同研究を推進されています。新規プロバイオティクスのヒトへの応用的研究は、日本経済新聞(千葉・首都圏経済版2015年5月27日付)等に掲載され注目されています。



新しい豚肉製品への展開



# ノンメタポーク

## Non-Meta Pork



ムダな脂肪が少なく、さっぱり!!  
一般豚よりビタミンB1が豊富☆

千葉大学が産学連携で開発した、  
おいしくてヘルシーな豚肉

千葉大学発ベンチャー  
株式会社サーマス

# 04

## FUND

### 千葉大学SEEDS基金

千葉大学SEEDS基金は、  
チャレンジを支え、  
人を育てる基金です

千葉大学は、平成18年にSEEDS基金を創設し、多くの皆様からご協力いただき、平成23年度より事業を開始しました。

また、平成28年10月からは経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的とした千葉大学修学支援基金が創設されました。

我が国の財政状況が厳しい中、国の国立大学運営費交付金予算額は、法人化された平成16年度と比べると大きく減少しています。

千葉大学においても多様な財源を確保していく必要があります。千葉大学SEEDS基金が大学運営において果たす役割は、今後ますます重要となります。

皆さまからいただいた寄附金は、本学の教育研究活動等に大切に活用しています。



## ○ 学生への奨学金等の経済支援

奨学金・支援金の給付

約 **2,150** 万円

平成23年度から支援を開始しています。

(平成23年～平成29年3月末)

学術研究学生表彰により奨学金を受けた学生からのお礼メッセージ

- 工学部4年次学生(平成29年3月)  
大学院進学を考えて努力してまいりましたが、大学3年次に手術・入院に至る大きな怪我をし、勉学に支障をきたす状況に陥りました。勉学、研究およびアルバイトという三つのタスクを同時進行させるには大変なエネルギーを要する厳しい環境となっていたところ、このようなご支援を頂けることとなり、経済的負担軽減はもちろんのこと精神的な支えにもなりましたので、大変感謝しております。  
理学部4年次学生(平成29年3月)
- 大学院進学にあたっては奨学金を借りて自力で進学するつもりでした。私は5人兄弟の長男で、下には弟や妹が控えています。彼らの学費や今後の進学等を考えると、これ以上親に負担をかけられないと思ったからです。実際4月から日本学生支援機構よりご支援をいただくことになっていますが、その状況にあって千葉大学SEEDS基金からの50万円という大きなご支援は大変貴重なものと考えております。今後はご支援いただいたことを忘れずに、勉学、研究ともに真摯に取り組んでいきたいと思っております。



## 国際交流事業の推進

海外渡航の支援

約 **5,100** 万円

約420名の学生の海外渡航を支援しました。  
(平成23年～平成29年3月末)

学部学生の留学支援奨学金により  
渡航した学生からのお礼のメッセージ  
(抜粋)



■ 教育学部2年次学生(平成28年9月)  
平成28年の夏に2週間ほど、スリランカの村にホームステイしながら道路を作るというボランティアプログラムに参加させていただきました。この村は電気が通って1年足らず。断水は日常茶飯事。日本人である私達からしたら決して快適とはいえない村でした。～中略～「誰かを想い、誰かと深くかかわることでこんなにも大きな幸せを感じることができるんだ」と心の底から感じることもできました。私の家庭は裕福ではなく、大学に通うことがやっとの状況です。このような形で支援していただけることは本当にありがたいことです。ありがとうございます。今後は奨学生として支援していただいているという感謝と自覚を胸に更なる挑戦をしていこうと思います。

## 教育研究環境の整備

学術研究支援

約 **3,600** 万円

高い研究開発能力を示した若手研究者への表彰など、若手教員・研究者の研究支援を行いました。

(平成23年～平成29年3月末)

図書館への本の設置

約 **610** 万円

学生が購入を希望する学業に関する書籍などを毎年図書館に設置しました。

(平成23年～平成29年3月末)




大学院学生等の海外渡航支援プログラム

千葉大学SEEDS(=無限の生命力を象徴する種子)基金は、以下の事業を支援します。

- ① 学生の生活環境の整備
- ② 教育研究環境の整備
- ③ 学生への奨学金等の経済支援
- ④ 国際交流事業の推進
- ⑤ 社会連携活動への支援
- ⑥ その他特に必要と認められる事業

法人様からのご寄付  
全額損金算入が可能です

次世代につなぐ   
イノベーションと  
テクノロジーのために

未来の種を蒔く

千葉大学SEEDS基金  
SEEDS=無限の生命力を象徴する種子

Webページより寄附の申し込みの手続きができます。  
詳しくは  
<http://kikin.chiba-u.ac.jp/>



## 実績やガバナンス体制などで高評価「臨床研究中核病院」に承認されました

2017年3月、当院の臨床研究の実績や実施体制などが高く評価され、医療法に基づく「臨床研究中核病院」に承認されました。全国でわずか11病院しか承認されておらず、日本発の革新的な医療品・医療機器などの開発を推進するため、国際水準の臨床研究や、医師主導治験の中心的役割を担う病院として、医療法上に位置づけられているものです。

今後も高水準の臨床研究実施のための体制強化を図るとともに、医師主導治験の推進、優れた研究者の育成を進め、日本における臨床研究の拠点として社会に貢献してまいります。

### 「臨床研究実施体制」に求められている要件

- 病院長を中心とした研究管理体制（ガバナンス体制）
- 臨床研究支援体制（ネットワークの構築を含む）
- データ管理の体制
- 安全管理の体制
- 倫理審査体制
- 利益相反管理の体制
- 知財管理・技術移転の体制
- 国民への普及・啓発及び研究対象者等への相談体制



## 一貫した乳がん治療を提供します ブレストセンター



多職種が連携し、カウンセリングから診断、治療、術後ケアまで一貫してサポートを行うブレストセンターが2017年7月1日にオープンしました。

日本では12人に1人が乳がんと診断されており、仕事や育児に忙しい40代が罹患のピークといわれています。乳がんの治療法は近年大きく変化しつづけ、手術だけでなく薬物療法や内分泌療法などその選択肢は多岐にわたります。

当センターでは診療科・部門間の連携を強化し、患者さんの状態やライフスタイルに合わせた最善の治療を提供します。



乳腺外来、形成外科外来、看護専門外来、薬剤師面談、遺伝相談、和漢診療などを1カ所で受けることができます。

## リハビリを楽しく！ にし棟11階にイラスト が描かれました

入院中の患者さんが少しでも楽しくリハビリができるようにと、当院公式キャラクターの生みの親である画家の伊藤香奈さんがお散歩コースをコンセプトに、

みなみまちの仲間や草木花を描きました。20mほどのコースが3つあり、草木花には前向きな思いが込められています。



病院公式キャラクター  
(左から) ぴーちゃん、びな子、びなた

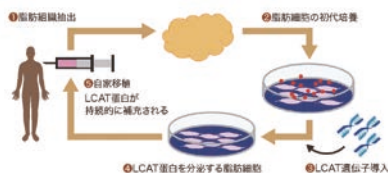


スタッフステーション前のカウンターでは、キャラクターたちが皆さんをお出迎え

## 脂肪細胞を使って 難病克服に挑むLCAT 欠損症の遺伝子治療



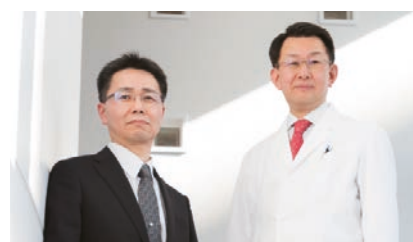
形成・美容外科の協力のもと脂肪細胞を採取  
(左：三川信之科長、右：窪田吉孝医師)



流れの図

LCAT (エルキャット) とは、体内で善玉コレステロールを分泌するための酵素です。これが生まれつき体内に備わっていないため、腎臓や血管などに機能不全が出る病気が「LCAT欠損症」です。当院で

は、LCATを持続的に供給できる方法として、体内から取り出した脂肪細胞にLCATを正常につくれる遺伝子を組み込み、再び体内に戻す治療法を開発しました。マウスでの実験ではすでに成功し、現在は臨床段階に入っています。臨床試験で好結果が得られ、最終的に厚生労働省の認可を受ければ、実用化となります。



(写真右) 糖尿病・代謝・内分泌内科長  
横手幸太郎

(写真左) 未来開拓センター 黒田正幸

## 患者さんと医療機関 をつなぐ「SHACHI」

患者さんの医療・介護・健康の情報をまとめて管理できる地域医療介護健康情報連携基盤「SHACHI (Social Health Assist CHlba)」を開発しました。「SHACHI」は、医療関連機関での情報共有はもちろんのこと、患者さんがスマートフォンで自分の情報を閲覧することができます。また、紹介状や、診断書、入院記録などを保存することもでき、さらには患者さんご自身で血圧や体重など「日々の記録」をメモすることもできます。全国16地域で実施中の国の大型プロジェクト(クラウド型EHR高度化事業)の一つにも選ばれました。

みんなでSHACHIを使いましょう！  
詳しくは公式ホームページをご覧ください



SHACHI公式ホームページ  
<https://www.shachi-net.jp/>



# 06

## RESEARCH INSTRUMENT

学外から利用できる  
研究機器の紹介

### 共用機器センター

#### 共用機器センターとは？

研究機器・設備の集中管理などを行う共同教育研究施設です。主に化学系大型分析機器を多数設置し、学内他部局の機器も共同で管理しています。また学内外に向けた機器共同利用の窓口となっています。

さらに機器を有効利用するための教育と人材育成や技術支援、研究開発も行っています。



#### 研究機器の 共同利用



共用機器センターが管理する研究機器について、学外からの学術利用(大学等)や一般利用(企業等)を受け付けていま

す。利用者自身が実験を行う「利用者測定」の他、一部の機器では、担当スタッフによる「依頼測定」も受け付けています。現在、年間約20の企業・団体が共用機器センターを通じて機器を利用しています。

機器利用にあたっては、全国の大学が参加する「大学連携研究設備ネットワーク」を通して、Web上で機器の予約や課金状況の確認ができます。同ネットワークは大学だけでなく一般企業も参加可能です。

また利用者は「千葉大学研究設備活用システム(CURIAS)」により、共用機器の検索や測定データの管理、遠隔モニタリングなども簡便に行うことができます。

## ○ 教育と人材育成

学内外の機器利用者向けに、担当スタッフや学内外の専門家による技術講習会やセミナーを行っています。またセンターの機器によって得られた研究成果の報告会なども開催しています。



## ○ 利用希望の お問い合わせ先

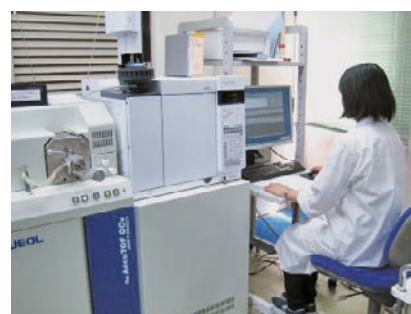
千葉大学 共用機器センター

TEL: 043-290-3810

E-mail: cai-network@chiba-u.jp

URL: <http://www.cac.chiba-u.ac.jp/>

利用にあたっては、機器の種類や利用形態などに合わせて一定の料金を頂いています。詳しくは共用機器センターにお問い合わせ下さい。



質量分析装置

機器名	用途
核磁気共鳴装置	核磁気共鳴現象(NMR)の観測による、分子の構造解析や分子挙動の観測など。
電子スピン共鳴装置	電子スピン共鳴現象(ESR)の観測による、常磁性反応中間体の追跡や半導体の物性評価など。
質量分析装置	試料の質量(分子量)の観測による、構造解析や微量物質の検出など。
単結晶/粉末X線回折装置	X線の回折像を測定することによる、単結晶の構造解析や化合物の同定、構造変化の観測など。
有機元素分析装置	試料中の炭素、水素、窒素などの組成比を測定することによる、有機化合物の構造決定や純度決定など。
透過型電子顕微鏡	薄層試料を透過した電子の干渉像を検出することによる、極微小領域(オングストロームサイズ)の観察。
走査型電子顕微鏡	試料表面に電子ビームを照射し、二次電子等を検出することによる、微小領域(マイクロメートルサイズ)の観察。
顕微紫外可視近赤外分光光度計	微小領域で紫外～近赤外光の吸収スペクトルを測定することによる、不均一試料の同定や物性評価など。
顕微赤外分光光度計	微小領域で赤外光の吸収スペクトルを測定することによる、不均一試料の同定や物性評価、構造解析など。
発光量子収率測定装置	発光量子収率(吸収された光子のうち発光として放出される光子の割合)の測定による、発光材料の性能評価など。
ゼータ電位・粒径測定装置	コロイド粒子の粒径やゼータ電位測定による、試料(ナノ粒子または固体表面)の物性評価など。



透過型電子顕微鏡



核磁気共鳴装置

## COMMENT



理事(総務担当・事務局長)

猿渡 政範

千葉大学は、平成16年度の法人化以降、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、創造的な教育・研究活動を実践してまいりました。

一方で、平成28年度からの第3期中期目標期間においては、機能強化の方向性に依り運営費交付金が重点配分される仕組みが新たに導入されたところであり、千葉大学は、「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を機能強化の中核とする国立大学」として位置付けられ、現在、学長のリーダーシップのもとで機能強化を一層進めていくとともに、「国際社会で活躍できる次世代型人材の育成」や「世界をリードする学術研究の推進」等に取り組んでおります。

このような厳しい競争環境下において、安定的な大学運営を行うためには、更なる外部資金の受入のための戦略的取組の実施や保有資産の見直し・有効活用の促進により、財務基盤の強化を図るとともに、収支に加え、業務損益にも留意したPDCAサイクルによる経営の管理運営を実践していく必要があります。さらに、これらの状況を踏まえ、財務データをはじめとする大学情報の公表の重要性は一層高まっており、本学としても積極的な情報発信に取り組んでいるところです。

今回、お届けいたします「CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2017」は、財務状況および教育・研究活動に関する最新のトピックスに加え、共同研究などの産学連携に係る取組みについても記載し、皆様方に対して身近で分かりやすい報告書となるよう心がけ作成いたしました。本レポートを通じて、本学の活動状況をご理解いただき、ますますのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# Financial Highlight

ファイナンシャルハイライト

(単位：百万円)

	H27	H28	増減 (前年度比)
資 産	224,133	221,324	△ 2,809
負 債	56,877	56,866	△ 11
純 資 産	167,256	164,458	△ 2,798
費 用	67,882	68,589	707
収 益	67,060	67,955	895
運営費交付金収益	17,770	17,783	13
学生納付金収益	8,327	8,381	54
附属病院収益	30,610	31,967	1,357
寄附金収益	1,259	1,296	37
受託研究等収益	3,040	3,049	9
受託研究収益	2,440	2,327	△ 113
共同研究収益	600	721	121
その他の収益	6,053	5,479	△ 574
当期総利益 (損失)	△ 822	△ 634	188

注)本レポートでは、単位未満を四捨五入しているため、計・差引が一致しない場合があります。  
詳細については、「国立大学法人会計の仕組み」以降を参照ください。

# 国立大学法人 会計の仕組み

## 1 国立大学法人と民間企業の違い

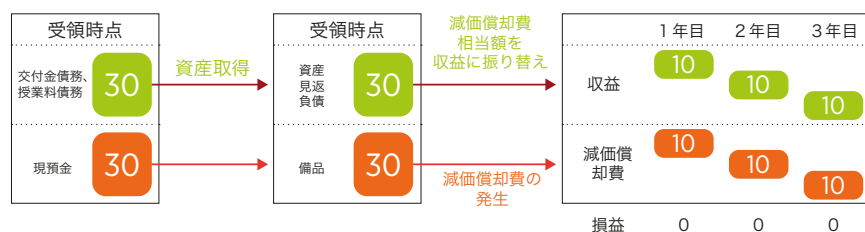
国立大学法人は、公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず、独立採算性を前提としない等の独立行政法人の特性に加え、主たる業務内容が教育・研究・診療である等の特性を持っています。そのため、通常の業務運営を行った場合には、基本的には利益は生じず、損益が均衡する仕組みとなっています。(ただし、病院収入の取扱などについては、利益の獲得という面が一定程度考慮される仕組みとなっています)。

区分	活動の目的	利益の獲得
民間企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーの利益最大化</li> <li>・企業価値最大化</li> </ul>	・目的とする
国立大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的性格を有する教育研究診療の実施</li> </ul>	・目的としない

## 2 国立大学法人会計特有の仕組み(損益均衡)

運営費交付金や授業料を受領したときは、行うべき業務として債務認識(負債に計上)し、行うべき業務を実施すると、その相当額を収益化の基準に従って収益化する仕組みとなっています。また、一般的に固定資産を運営費交付金などで取得した場合、取得原価相当額を資産見返負債として計上することで、収益計上を一旦留保します。その後、留保された金額から減価償却費相当額を毎年収益に振り替えていきます。

このように、国立大学法人は、通常の業務を行えば損益が均衡するように制度設計されています。



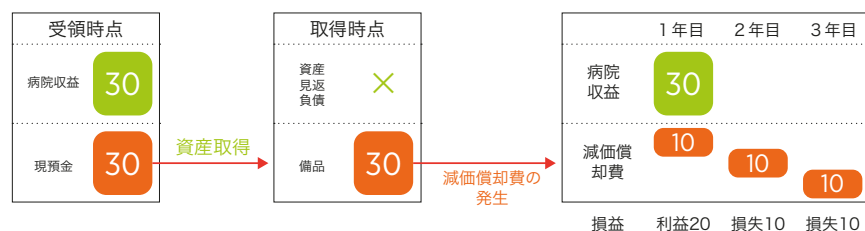
## 3 現金の裏付けのない帳簿上の利益

### (1) 資産の取得に充てた病院収入と減価償却費の差から生じる利益・損失

附属病院においては診療業務を実施したことにより病院収益が計上される(対価を伴う業務による収入)ため、企業会計と同様の会計処理を行います。

病院収入(診療報酬)を受領したときは、そのまま収益となるため、病院収入により資産を取得した場合は、現金の裏付けのない帳簿上の利益や損失が発生します。「2 国立大学法人会計特有の仕組み(損益均衡)」でご紹介した資産見返負債を計上することはありません。

以下の例では、1年目に利益が発生し、2～3年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の利益又は損失となります。





## (2) 借入金の返済期間と減価償却期間のずれから生じる利益・損失

附属病院の借入金には病院収入により返済しますので、病院収益の一部が毎年の返済に充てられることとなります。他方で、建物等の固定資産を取得した場合、毎年減価償却費が発生します。借入金の返済期間と、借入金により建設した建物等の減価償却費の発生する期間が異なることから、毎年利益又は損失が生じることとなります。

以下の例では、1～20年目に利益が発生し、21～30年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の利益又は損失となります。

借入金(60)：1～20年目に毎年均等返済      減価償却費(60)：1～30年目に毎年定額償却

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	17年	18年	19年	20年
借入金の返済に充てる病院収益	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
減価償却費	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損益(利益)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

区 分	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	累計
借入金の返済に充てる病院収益											60
減価償却費	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	60
損益(損失)	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	±0

## 4 国立大学法人の利益処分

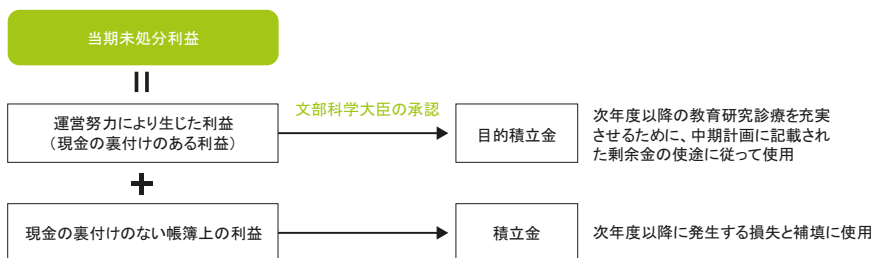
### (1) 通常の事業年度の利益処分

国立大学法人には、民間企業における株主のような営利目的の資本主が存在しませんので、利益を配分等として外部に分配することはありません。また、国立大学法人の利益は、「運営努力により生じた利益」と、「現金の裏付けのない帳簿上の利益」の2つに大別されます。

「運営努力により生じた利益」とは、業務の効率化による費用削減や積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。

この利益は、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣に剰余金の使途の承認申請を行い、承認を受けた金額は次年度以降の教育研究診療を充実させるために、中期計画に記載された剰余金の使途に従って使用することが認められています。

「現金の裏付けのない帳簿上の利益」とは、先に例をお示したように、収益の発生年度が費用の発生年度より先行することにより生じる利益であり、次年度以降に発生した損失の補填に使用することとなります。



### (2) 中期目標期間の最終事業年度の利益処分

中期目標期間の最終事業年度の利益処分は、通常の事業年度と異なります。最終事業年度の未処分利益や前中期目標期間繰越積立金の残高をすべて積立金として整理し、積立金の処分を行います。

当該積立金については、文部科学大臣の承認を得たものに限り「次期中期目標期間繰越積立金」として次期中期計画に定めた積立金の使途に従って使用することができます。それ以外は国庫納付金として国へ返還します。

# 貸借対照表の概要

## 1 貸借対照表

貸借対照表は大学の財政状況を明らかにするものです。

大学が所有する資産(教育・研究・診療活動等に必要な資源)と、その調達方法である負債(他人資本)と純資産(自己資本)が示されています。

(単位：億円)

資産の部			負債の部		
固定資産			資産見返負債	160	(170)
土地	1,302	(1,302)	借入金	221	(226)
建物等 ※1	564	(595)	長期末払金	30	(18)
備品 ※1	100	(105)	寄附金債務	36	(33)
図書	53	(54)	未払金 ※3	85	(89)
建設仮勘定 ※2	4	(1)	その他	37	(33)
投資有価証券	15	(15)	負債合計	569	(569)
その他	5	(8)			
流動資産			純資産の部		
現金及び預金	33	(45)	資本金	1,508	(1,508)
未収入金	61	(66)	資本剰余金	94	(113)
有価証券	70	(47)	利益剰余金	49	(59)
棚卸資産	4	(4)	当期末処分利益(当期末処理損失)	△ 6	(△ 8)
その他	2	(1)	純資産合計	1,644	(1,673)
資産合計	2,213	(2,241)	負債・純資産合計	2,213	(2,241)

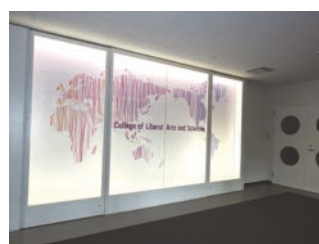
単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成27事業年度

○国際教養学部棟、附属病院救急外来棟など建物等の新営工事・改修を行った一方で、既存の建物・備品等の老朽化に伴う減価償却が進行しています。(※1)

○附属病院にし棟等改修・設備工事、松戸キャンパスのアカデミック・リンク設計業務等の前金払いに伴い建設仮勘定が増加しています。(※2)

○固定資産取得の減少等により未払金が減少しています。(※3)



国際教養学部棟玄関内



国際教養学部棟3F



国際教養学部棟1F

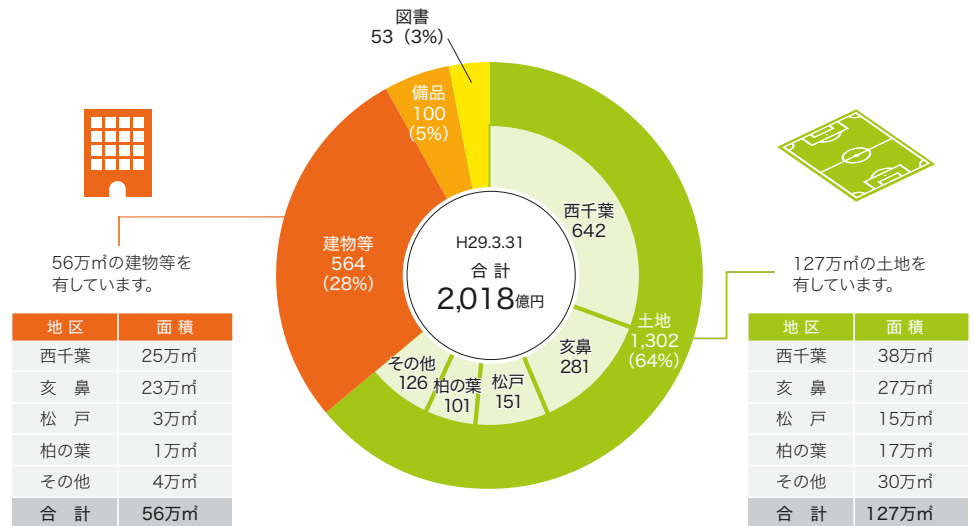


救急外来棟

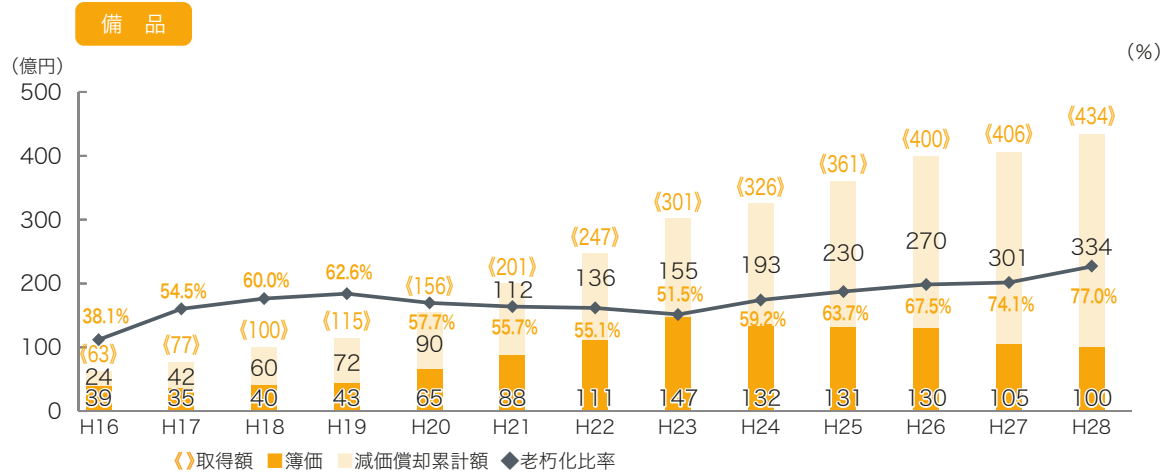
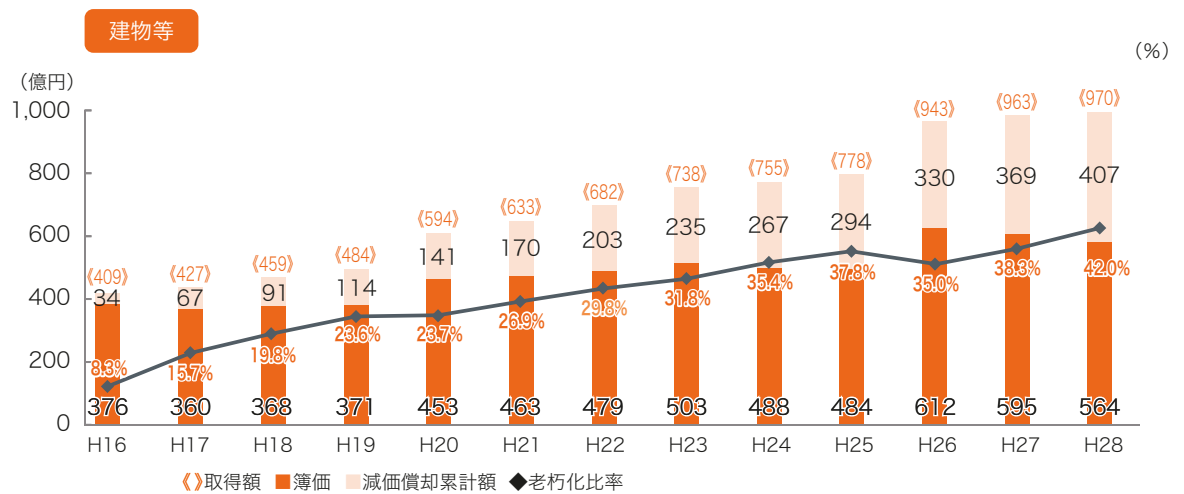


救急外来棟内

## 2 主要な有形固定資産の内訳



### 老朽化比率の年度別推移



# 損益計算書の概要

## 1 損益計算書

損益計算書は大学の運営状況を明らかにするものです。

事業活動を行うためにかかった費用(教育・研究経費、診療経費等)とそれに充当した収益(運営費交付金収益、学生納付金収益、附属病院収益等)を示しています。

(単位：億円)

経常費用			経常収益		
教育経費	31	(32)	運営費交付金収益	178	(178)
研究経費	41	(42)	学生納付金収益	84	(83)
診療経費	210	(210)	附属病院収益 ※2	320	(306)
教育研究支援経費	11	(11)	外部資金	54	(53)
受託研究費等	29	(30)	機関補助金	13	(19)
人件費 ※1	344	(335)	その他	28	(28)
一般管理費	15	(14)			
その他	3	(3)			
<b>経常費用合計</b>	<b>684</b>	<b>(677)</b>	<b>経常収益合計</b>	<b>676</b>	<b>(667)</b>
臨時損失	2	(2)	臨時利益	1	(3)
			目的積立金取崩等	3	(1)
<b>計</b>	<b>686</b>	<b>(679)</b>	<b>計</b>	<b>680</b>	<b>(671)</b>

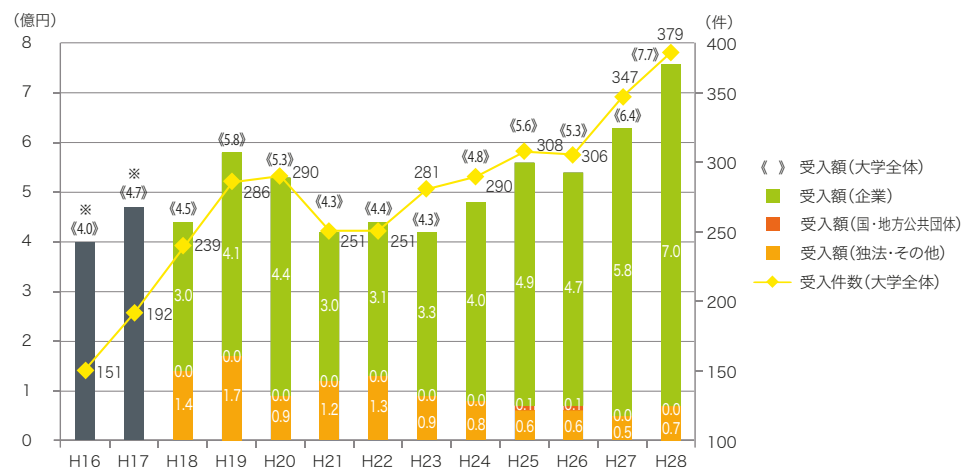
**当期総利益(損失)**      △ 6      (△ 8)

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成27事業年度

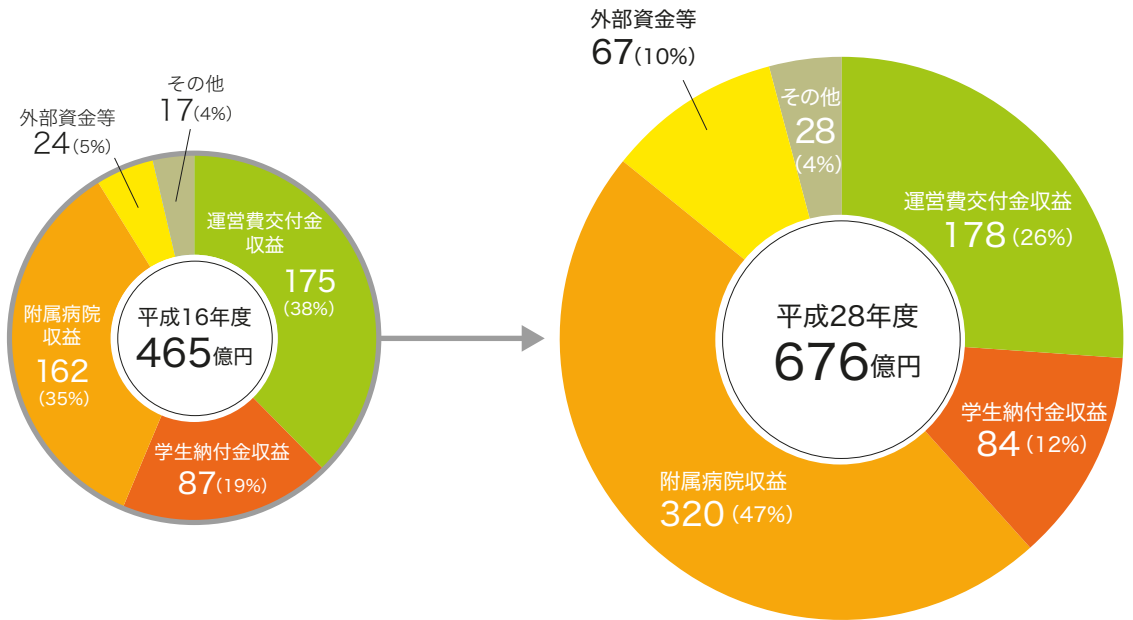
- 人件費は、年俸制の実施、地域手当及び法定福利費の上昇や病院収入による雇用の増加により増えています。(※1)
- 附属病院収益は、入院及び外来診療単価の増加等による入院及び外来診療収益の増加により増えています。(※2)

### 【参考】共同研究受入状況の推移



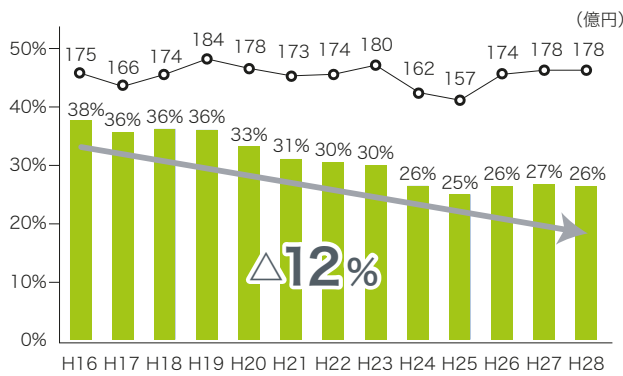
○千葉大学では産学連携を積極的に推進しており、共同研究の受入件数は平成16年度に比べて228件増加しています。  
 ※平成16年度及び平成17年度は受入額の内訳が不明なため、総額のみ表示しています。

## 2 主要な経常収益(シェア)の推移

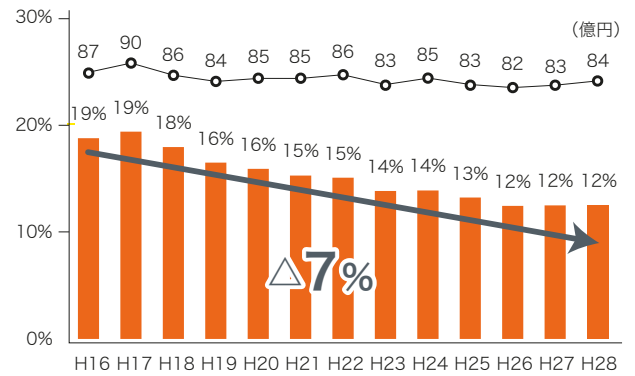


平成16年度(国立大学法人化の初年度)と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。

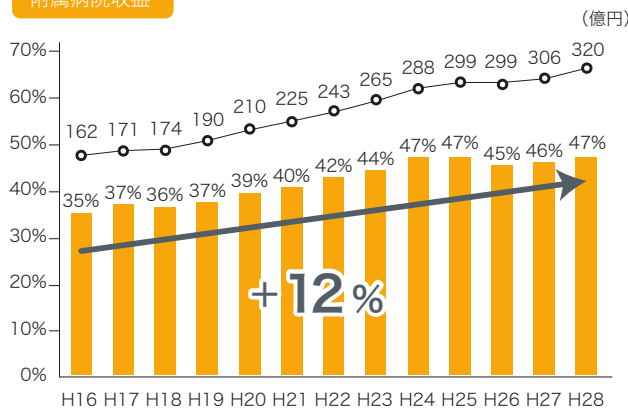
運営費交付金収益



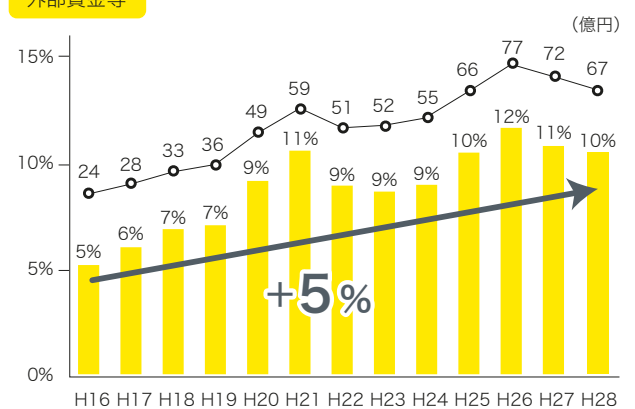
学生納付金収益



附属病院収益



外部資金等



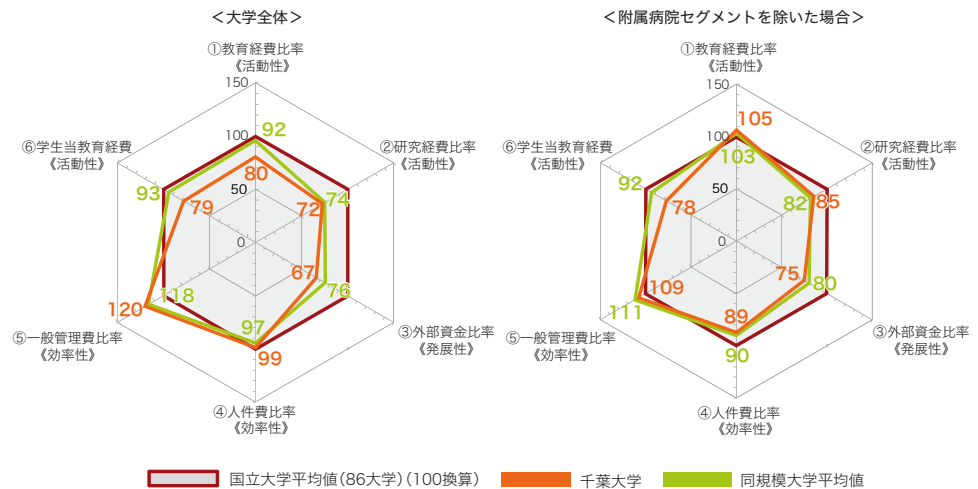
# 財務指標

## 1 分析結果と今後の課題

- 外部資金比率については、共同研究、受託研究などの受入額の増加に伴い受託研究等収益が増加した一方で、人件費の増加に伴い業務費が増加したことにより前年度と同水準で推移しておりますが、同規模大学平均と比べると低くなっています。  
大学運営における財務基盤の充実のため、引き続き外部資金受入に努めてまいります。
- 一般管理費比率は同規模大学平均と比べても低く良い傾向であるため、引き続き経費削減に努めてまいります。
- 人件費比率が同規模大学平均と比べて高い一方で、研究経費比率は低くなっています。限られた資源を最大限活用するため、学長のリーダーシップのもと、戦略的経費を確保したうえで、一層効果的・効率的な運営に努めてまいります。

## 2 財務指標レーダーチャート

本学と、同規模大学をレーダーチャートで比較し、財務状況を分析しています。比率が低いほうが望ましいもの（人件費比率、一般管理費比率）については逆数を用いており、グラフ上はすべて外側に行くほど財務上の評価が高くなるように表示しています。



※1 同規模大学は、千葉、筑波、金沢、神戸、岡山、広島の6の国立大学としております。  
 ※2 財務諸表の計数については、各大学ホームページにて公開の財務情報より算出しております。

### 財務指標とは

財務指標とは財政状態や運営状況を財務諸表の計数を用いて計算し数値化したものです。本学では、今後の大学運営の改善や取組の参考とするために、平成28事業年度における同規模大学と比較分析を行っています。

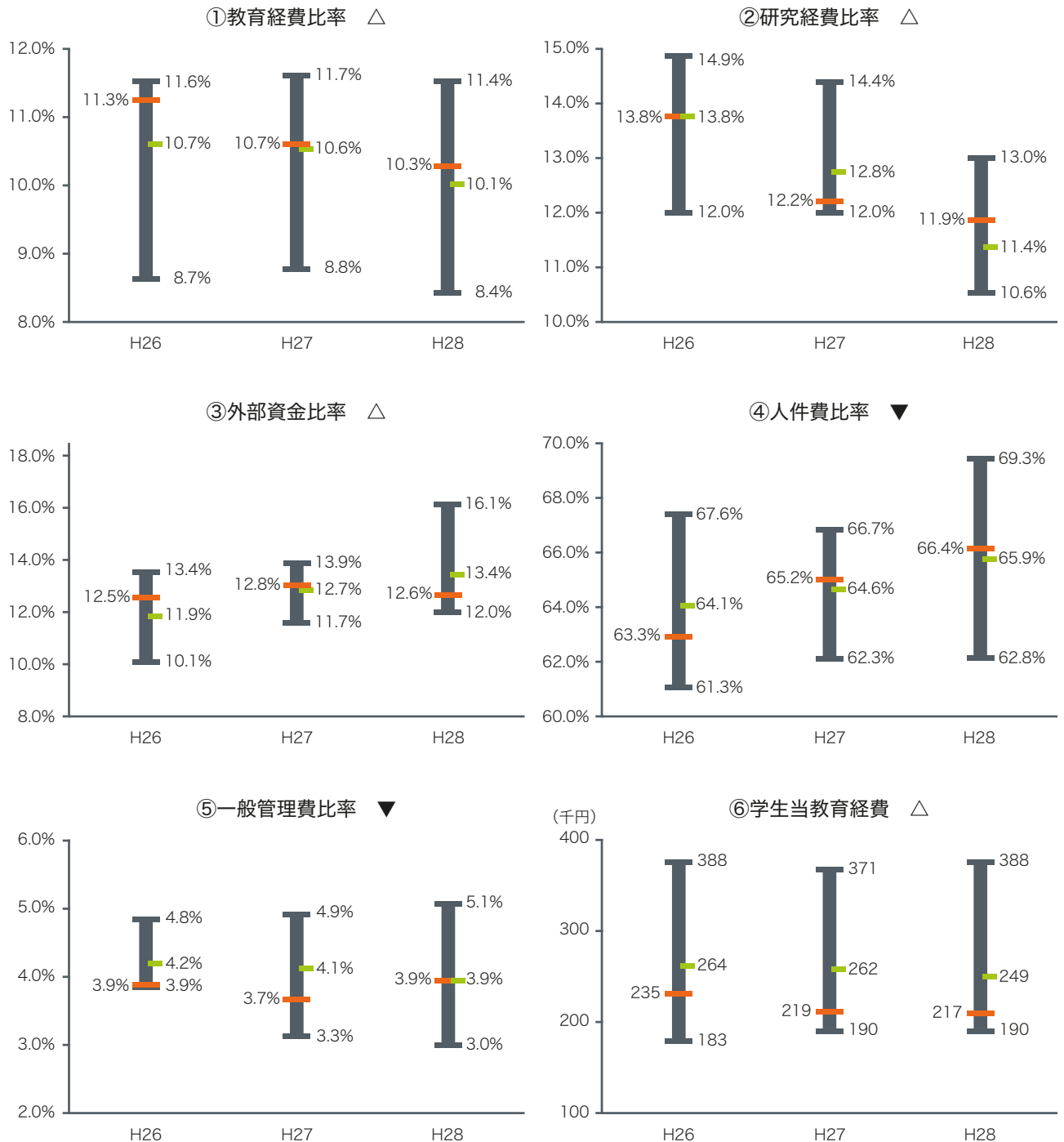
### 3 財務指標から見た同規模大学との比較分析

■は千葉大学を、■は同規模大学平均値を示します。

最大値・最小値は、同規模大学における最大値・最小値を示します。

より高い方が望ましい指標には △ を、低い方が望ましい指標には ▼ を付してあります。

各指標は、財務諸表、事業報告書等の数値に基づき算出しています。



※1 財務諸表の計数については、附属病院セグメントを除いた数値を使用しております。

## 1 損益状況について(附属病院セグメントを除く)

(単位：億円)

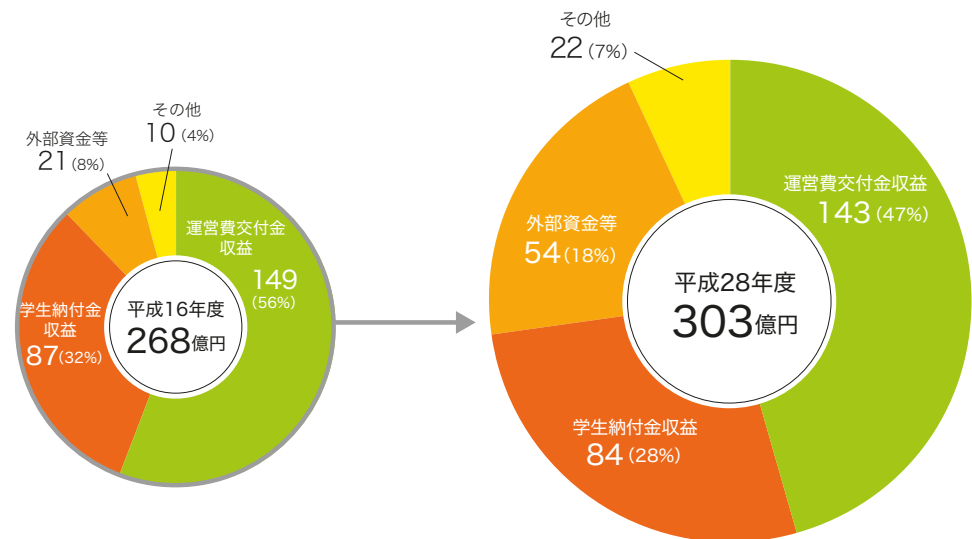
経常費用			経常収益		
教育経費	30	(31)	運営費交付金収益	143	(140)
研究経費	35	(36)	学生納付金収益	84	(83)
教育研究支援経費	11	(11)	外部資金	43	(44)
受託研究費等	22	(24)	機関補助金	11	(16)
人件費	195	(191)	その他	22	(21)
一般管理費	12	(11)			
その他	0.01	(0.06)			
<b>経常費用合計</b>	<b>306</b>	<b>(304)</b>	<b>経常収益合計</b>	<b>303</b>	<b>(305)</b>
臨時損失	2	(1)	臨時利益	1	(3.0)
			目的積立金取崩等	3	(0.6)
<b>計</b>	<b>308</b>	<b>(305)</b>	<b>計</b>	<b>307</b>	<b>(309)</b>
<b>当期総利益(損失)</b>			<b>0</b> (3)		

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成27事業年度

国立大学法人は公共的な性格を有し、利益の獲得を目的としないため、通常の業務を行えば損益が均衡するように制度設計されています。

## 2 主要な経常収益(シェア)の推移



平成16年度と比べて事業規模が拡大しているにもかかわらず、運営費交付金収益や学生納付金収益は増加せず、経常収益に占めるシェアは減少しています。

一方で、受託研究・共同研究などの外部資金や、財産貸付料・講習料などのその他の収益が増加し、経常収益に占めるシェアは増加しています。



### 3 附属病院セグメントの損益状況について

(単位：億円)

経常費用			経常収益		
教育経費	0.5	(0.5)	運営費交付金収益	35	(37)
研究経費	6	(6)	附属病院収益	320	(306)
診療経費	210	(210)	外部資金	10	(9)
受託研究費等	7	(6)	機関補助金	2	(3)
人件費	149	(144)	その他	6	(7)
一般管理費	3	(3)			
その他	2	(3)			
<b>経常費用合計</b>	<b>378</b>	<b>(373)</b>	<b>経常収益合計</b>	<b>373</b>	<b>(362)</b>
臨時損失	0.6	(0.5)	臨時利益	0.3	(0.1)
			目的積立金取崩等	0.1	-
<b>計</b>	<b>379</b>	<b>(374)</b>	<b>計</b>	<b>373</b>	<b>(362)</b>
<b>当期総利益 (損失)</b>			<b>△ 6 (△ 12)</b>		

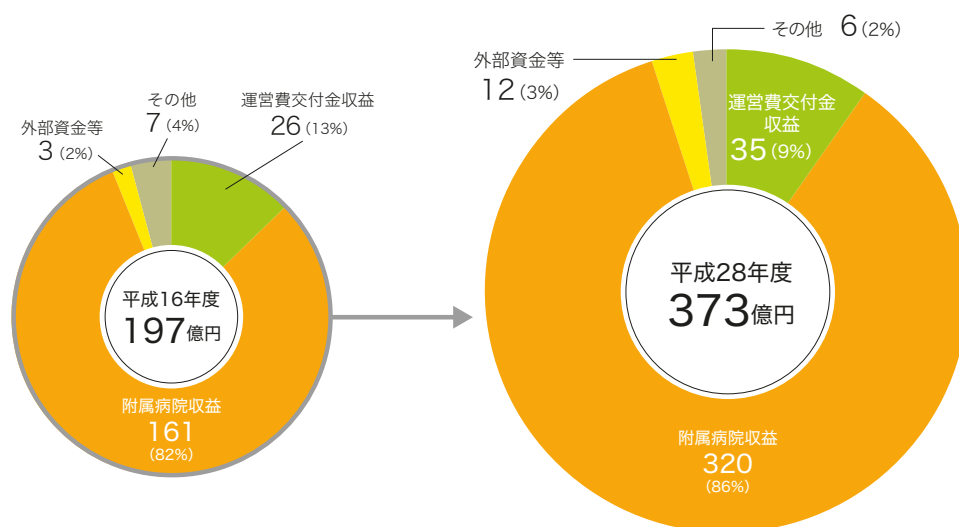
単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成27事業年度

附属病院においては、診療業務を行い対価として治療費を受け取るため、企業会計と同様の会計処理を行います。

附属病院は現在再開発中であり、平成32年度の高度救命救急センター設置及び手術室増室に向けた先行投資を行ったことなどにより、附属病院セグメントにおいては約6億円の当期総損失となりました。

### 4 主要な経常収益(シェア)の推移



病院の機能強化と将来の地域医療のために病院再開発事業を展開してきたことにより、附属病院収益は平成16年度と比べて約2.0倍に増加しました。

# 財務諸表等の 計数推移

## 1 貸借対照表

(単位：百万円)

区分	H16	H23	H24	H25	H26	H27	H28	差引 H28-H27
<b>資産の部</b>								
<b>固定資産</b>	178,418	202,815	200,626	207,470	212,615	207,811	204,341	△ 3,470
有形固定資産	178,096	201,420	198,968	205,452	210,678	205,693	202,334	△ 3,359
土地	130,463	130,463	130,452	130,452	130,279	130,191	130,191	0
土地	130,463	130,463	130,463	130,463	130,290	130,290	130,290	-
減損損失累計額	-	-	△ 11	△ 11	△ 11	△ 99	△ 99	-
建物	36,051	47,912	46,524	45,907	58,308	56,602	53,643	△ 2,959
建物	39,111	69,989	71,574	73,503	89,260	91,155	91,713	558
減価償却累計額	△ 3,059	△ 22,077	△ 25,050	△ 27,596	△ 30,952	△ 34,554	△ 38,070	△ 3,516
構築物	1,531	2,368	2,273	2,503	2,924	2,856	2,716	△ 140
構築物	1,830	3,801	3,904	4,341	4,998	5,181	5,299	118
減価償却累計額	△ 299	△ 1,433	△ 1,631	△ 1,837	△ 2,074	△ 2,325	△ 2,583	△ 258
工具器具備品	3,867	14,653	13,219	13,073	12,974	10,480	9,978	△ 502
工具器具備品	6,263	30,135	32,556	36,106	39,966	40,590	43,366	2,776
減価償却累計額	△ 2,396	△ 15,481	△ 19,337	△ 23,033	△ 26,992	△ 30,111	△ 33,389	△ 3,278
図書	5,397	5,364	5,358	5,367	5,389	5,361	5,293	△ 68
建設仮勘定	649	518	994	7,996	655	53	371	318
その他の有形固定資産	137	142	147	154	150	150	142	△ 8
無形固定資産	139	250	266	331	354	527	406	△ 121
投資その他の資産	183	1,145	1,392	1,688	1,582	1,591	1,601	10
<b>流動資産</b>	11,275	19,420	21,683	27,235	20,388	16,322	16,983	661
現金及び預金	8,036	2,793	2,595	2,980	4,761	4,512	3,345	△ 1,167
未収学生納付金収入	81	102	84	80	80	74	73	△ 1
未収附属病院収入	2,726	5,056	5,268	5,244	5,495	5,669	5,744	75
未収附属病院収入	3,004	5,127	5,343	5,338	5,617	5,754	5,848	94
徴収不能引当金	△ 278	△ 70	△ 75	△ 94	△ 122	△ 85	△ 104	△ 19
その他の未収入金	24	226	337	1,680	1,794	896	317	△ 579
その他の流動資産	408	11,242	13,400	17,250	8,258	5,172	7,505	2,333
<b>資産合計</b>	189,692	222,235	222,309	234,705	233,003	224,133	221,324	△ 2,809
<b>負債の部</b>								
<b>固定負債</b>	24,850	38,623	36,252	41,861	43,360	41,181	41,029	△ 152
資産見返負債	8,033	13,950	13,997	18,204	17,853	17,032	16,048	△ 984
長期寄附金債務	182	191	15	23	32	41	47	6
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	9,436	3,660	3,097	2,571	2,066	1,581	1,125	△ 456
長期借入金	7,196	13,606	13,274	17,307	19,846	19,685	19,647	△ 38
引当金	3	214	255	339	371	417	469	52
退職給付引当金	3	214	255	270	303	348	401	53
その他引当金	-	-	-	68	68	68	68	-
その他の固定負債	-	7,000	5,613	3,417	3,192	2,425	3,693	1,268
<b>流動負債</b>	13,511	15,990	18,536	24,493	19,507	15,696	15,837	141
運営費交付金債務	238	36	498	1,198	106	-	29	28,945
寄附金債務	1,992	3,185	3,448	3,279	3,174	3,256	3,607	351
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,053	596	563	527	504	485	457	△ 28
一年以内返済予定長期借入金	3,349	517	574	645	724	831	856	25
未払金	5,167	9,200	10,391	16,276	12,602	8,765	8,392	△ 373
その他の流動負債	1,712	2,455	3,061	2,568	2,398	2,359	2,496	137
<b>負債合計</b>	38,362	54,613	54,788	66,354	62,867	56,877	56,866	△ 11
<b>純資産の部</b>								
資本金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	150,821	150,821	-
政府出資金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	150,821	150,821	-
資本剰余金	△ 609	8,925	8,155	8,545	12,131	11,312	9,421	△ 1,891
利益剰余金	1,033	7,791	8,459	8,899	7,185	5,124	4,217	△ 907
<b>純資産合計</b>	151,331	167,622	167,521	168,351	170,136	167,256	164,458	△ 2,798
<b>負債純資産合計</b>	189,692	222,235	222,309	234,705	233,003	224,133	221,324	△ 2,809

## 2 損益計算書

(単位：百万円)

区分	H16	H23	H24	H25	H26	H27	H28	差引 H28-H27
経常費用 (A)	45,892	58,782	60,327	62,260	67,247	67,717	68,363	646
業務費	44,157	57,153	58,756	60,644	65,475	66,007	66,617	610
教育経費	1,636	2,553	2,884	3,435	3,411	3,176	3,074	△ 102
研究経費	3,093	4,119	4,380	4,368	4,727	4,164	4,132	△ 32
診療経費	11,373	17,500	18,627	19,451	20,991	21,023	20,981	△ 42
教育研究支援経費	503	899	906	979	1,136	1,127	1,118	△ 9
受託研究 (事業) 費	1,140	1,961	1,826	2,021	2,649	2,980	2,912	△ 68
人件費	26,413	30,121	30,133	30,389	32,561	33,537	34,400	863
一般管理費	1,345	1,233	1,196	1,264	1,426	1,394	1,505	111
財務費用	390	394	367	346	343	312	241	△ 71
雑損	-	3	7	7	3	5	0	△ 5
経常収益 (B)	46,524	60,244	61,409	62,953	66,103	66,696	67,590	894
運営費交付金収益	17,490	17,957	16,244	15,748	17,402	17,770	17,783	13
学生納付金収益	8,741	8,323	8,542	8,267	8,222	8,327	8,381	54
附属病院収益	16,159	26,529	28,772	29,904	29,903	30,610	31,967	1,357
寄附金収益	1,094	1,138	1,287	1,414	1,374	1,259	1,296	37
受託研究等収益	1,127	1,727	1,658	1,942	2,508	3,040	3,049	9
受託研究収益	750	1,288	1,205	1,436	1,972	2,440	2,327	△ 113
共同研究収益	378	439	453	506	536	600	721	121
その他の収益	1,913	4,570	4,906	5,679	6,694	5,689	5,114	△ 575
経常利益 (損失) (B-A)	632	1,462	1,083	693	△ 1,144	△ 1,021	△ 773	248
臨時損益 (C)	401	△ 166	△ 123	△ 239	△ 536	142	△ 133	△ 275
前中期目標期間繰越積立金取崩額 (D)	-	65	7	-	-	-	273	273
目的積立金取崩額 (E)	-	-	39	53	759	57	-	△ 57
当期総利益 (損失) (B-A+C+D+E)	1,033	1,361	1,006	507	△ 922	△ 822	△ 634	188

## 3 利益の処分に関する書類

(単位：百万円)

区分	H16	H23	H24	H25	H26	H27	H28	差引 H28-H27
当期末処分利益 (当期末処理損失)	1,033	1,361	1,006	507	△ 922	△ 822	△ 634	188
当期総利益 (損失)	1,033	1,361	1,006	507	△ 922	△ 822	△ 634	188
利益処分類 (損失処理額)	1,033	1,361	1,006	507	△ 922	3,389	△ 634	△ 4,023
積立金	958	1,361	763	507	△ 922	3,389	△ 634	△ 4,023
目的積立金	75	-	243	-	-	-	-	-

## 4 (参考) 決算報告書

(単位：百万円)

区分	H16	H23	H24	H25	H26	H27	H28	差引 H28-H27
収入	46,434	62,605	62,806	73,703	74,995	66,979	67,305	326
運営費交付金収入	18,207	18,447	17,104	18,242	18,668	18,332	17,942	△ 390
補助金等収入	-	1,490	2,011	3,442	4,310	2,176	1,419	△ 757
学生納付金収入	8,082	8,323	8,262	7,262	8,089	8,048	7,964	△ 84
附属病院収入	16,159	25,584	28,434	29,853	29,596	30,398	31,901	1,503
その他収入	3,986	8,761	6,996	14,903	14,331	8,023	8,080	57
支出	46,183	62,173	61,563	73,249	75,488	66,159	66,478	319
教育研究経費	20,484	24,321	23,027	23,074	25,136	23,803	23,688	△ 115
診療経費	14,598	27,418	29,480	31,187	32,466	32,439	33,353	914
一般管理費	5,806	-	-	-	-	-	-	-
その他支出	5,295	10,434	9,055	18,989	17,885	9,917	9,436	△ 481
収入-支出	251	432	1,244	453	△ 492	819	826	7

決算報告書は、財務諸表とは別途に、現金主義を基礎とする国の会計に準じて作成する書類である。

AD ALTIORA SEMPER  
UNIVERSITAS CHIBA

# 2017

## FINANCIAL REPORT

[平成28事業年度] 平成28年4月1日～平成29年3月31日

### CHIBA UNIVERSITY

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

国立大学法人千葉大学財務部

TEL 043 290 2053 FAX 043 290 2049

EMAIL [cak2053@office.chiba-u.jp](mailto:cak2053@office.chiba-u.jp)

[www.chiba-u.jp](http://www.chiba-u.jp)

Copyright (C) 2017 Chiba University. All Rights Reserved.